

知ればもっと好きになる。

サトイモ科の植物について

ひるがの春にはおなじみのミズバショウやザゼンソウ。これらはサトイモ科の植物です。ミズバショウはひるがのが最南端とされ、またザゼンソウは春一番に雪を分けて顔を出すことなどから、なんとなく寒い場所を好むイメージがあります。けれど、サトイモ科の仲間は、むしろ温かいところの植物で、その仲間の多くは熱帯に分布しています。サトイモやコンニャクその他、花屋に並ぶ観葉植物のカラーやアンズリウムなども同じ仲間と聞けば、それもうなづけます。

サトイモ科とはいももの、食べられるわけではありません。ミズバショウやザゼンソウには毒がある、という話を聞いたことがあるかもしれませんが、毒というよりはあくがとでも強く、植物全体(特に根茎)にシュウ酸カルシウム(ほうれん草のあくの成分と同じもの)が多く含まれており、食べると中毒を起こします。※ミズバショウは下痢や血圧の低下などを起こすので利用は禁物です。

さて、話はもどりますが、本来は温かい所を好むサトイモ科の仲間ですが、その中でもミズバショウとザゼンソウの仲間は、最も寒い場所に適応し、北極を取り囲むように分布しています。こういう分布の仕方を周北極分布(しゅうほっきょくぶんぷ)と言います。例えば、ザゼンソウは、北東アジアと北アメリカ東部に分布し、ミズバショウは日本の北部からロシアの沿海州やシベリア東部に分布します。北アメリカ太平洋岸には、ミズバショウにとっても近い仲間のアメリカミズバショウ(黄色いミズバショウ)があります。サトイモ科以外でもワタスゲなど寒冷地の湿原植物や高山植物の仲間にも多く見られる分布の仕方です。こうした分布をする植物は、「氷河期(およそ7万年前には始まり1万年前に終了した最終氷期)」の生き残りだとされています。およそ6万年もの間、氷の解ける日を待ちわびていた植物の子孫だとすれば、毎年、雪の下から一番出てくるザゼンソウが、なんだか力強く、そしていじらしくも見えてきますね。

【情報 提供/写真: 瀬川和也】

ひるがの周辺で見られるその他のサトイモ科植物は、湿地に生えるヒメザゼンソウ(夏の花です)、マムシグサの仲間テンナンショウ属(林内に生える)、畑や道端の雑草であるカラズビジャクが仲間です。



雪を解かして咲き始めたザゼンソウ。(平成15年4月6日撮影)
花が咲く時に熱を発するという性質があり、3月中旬頃でも、花は25℃ぐらいになるそうです。ザゼンソウはひるがの高原に咲く草花や木の花の中では、最も早く咲き始めます。早い年には2月下旬に咲いているのを見たことがあります。

氷河期の生き残り? ザゼンソウとミズバショウ



珍しい緑色のザゼンソウ。(平成15年4月20日撮影)



ミズバショウが咲いている頃のザゼンソウ。早い時期に咲くもの比べると花が大きい。葉も広がり始めている。(平成15年4月27日撮影)

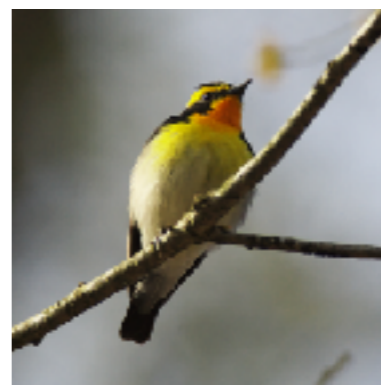


花が終わった後に葉が大きく広がる。ハート型に近い形が特徴。(平成15年5月5日撮影)

Skunk Cabbage (スカunkキャベツ)

ザゼンソウやアメリカミズバショウは、英語で、スカunkキャベツとよばれます。私が子どもの頃、読んだ童話に「エルマーのぼうけん」というのがありました。この中で、主人公のエルマー少年が出会う「りゆう(=竜)」の子どもの好物が、スカunkキャベツでした。当時は、その本の挿絵を見て、形がスカunkに似ているキャベツの仲間だと思っていました。もちろん、想像上の食物(植物)だと思っていたのですが、大人になって、日本にもあることが分かったのと、「くさいからスカunkなのだ」ということを知っていたいへん驚きました。ところで、「エルマーのぼうけん」(シリーズ全3巻)は、子供向けですが、とっても面白いのでぜひ御一読を。

— 森のナルシスト「キビタキ」 —



今回は、その姿や鳴き声がとても美しく、バードウォッチャーに大変人気のあるキビタキを紹介します。キビタキは全長約14センチの夏鳥で、雄はその名のとおり目の上、喉、胸が黄色、翼は黒色と綺麗ですが、雌はオリーブ色の地味な色合いをしています。(雌は「コサメビタキ」(=次号以降に紹介予定)と見分けるのが難しいので掲載写真は全て雄の個体です。)

オオルリが艶やかな姿から京女(きょうおんな)と呼ばれるのに対し、キビタキは凛とした風体から東男(あづまおとこ)と呼ばれることもあります。英名は「ナルシッソス・フライキャッチャー」といい、ナルシッソスとはナルシストの語源で、水面に写る自らの美貌に魅せられて、そのまま一輪の水仙になってしまったという伝説の美少年の名前に由来しています。こうした名前がつくのも、キビタキの持つ美しさならでは。後半のフライキャッチャーは、飛びながら小さな昆虫をキャッチする習性からきているようです。

ひるがの高原には、例年5月頃から飛来し、秋には南の国へ渡ります。集団で行動しないため、見つけることがなかなか難しい野鳥です。さえずりもいろいろなバリエーションがあり、表記するのは難しいですが、澄んだ美しい声で「ピーピーピー」と鳴いていることが多いです。ツクツクボウシ(蟬)のような声で囀ることもあります。

【文/写真: 舟橋哲也】

HIRUGANO
ばーど・うおっち

File No. 3

キビタキ

スズメ目ヒタキ科
全長約13~14cm

おし様
きれいだろ。
…ホれるなよ。

こう見えても
モノマネ
得意なんだぜ。



第1回

大地の上のお祭り ひるがのクラフト展

La Fete Sur la Terre
ラフェットスーラテール

2011.05.04 開催

Don't give up Tohoku!

出展料金は全額、東北関東地震被害者義援金として寄付します。



携帯でアクセス!

昭和20年頃まで
ひるがの高原は無住に近い不毛の原野でした。
先代たちはこの大地が
いつか「乳と蜜の流るる里」になることを目指して
汗を流し、鎌を手に持ち開墾しました。
そんな苦勞を重ねてこられた先代に感謝し
今回「ひるがのクラフト展」を通じ、ひるがの大地で
人と人、街と里山を結ぶ交流が生まれることに
とても期待をよせています。

クラフト作家による

見て食べて体験できる

マルシェ

市場

当日は50以上ものブースが並ぶという「ひるがのクラフト展」。メインキャラクターのミズパちゃんデザインを手掛けた白鳥在住のクラフト作家・meimeiさんをはじめ、郡上を中心とした岐阜エリアからはもちろん、県外からの出展者多数。各種作品の展示販売のほか、手作り体験ができるワークショップや野菜の直売などなど。仏語でラフェットスーラテール(大地の上のお祭り)と名付けられたこのイベントは、その名の通り、ひるがのという大地の上で、様々な手仕事や人が出会い、交流する場となって、それぞれの元気の素となってくれるはず。ぜひ足を運んでください。

こだわりの
手作り雑貨が
ひるがのに
大集合!

※ 郡上市内の小学生によるTシャツデザインの応募作品の展示もあります。※ 郡上全域でスタートしたスタンプラリーの限定スタンプが押せます。